から得られる出生率，死亡率，および移動数などの情報を基に各人口変動要因の将来仮定値がつくられ，2015年までの地域別（市町村別，県別）推計，さらにそれらを基にして2050年まで全国推計の結果が出されている．

今後，人口から国勢を理解し，自らの国の将来の人口構造を自分たちで展望することの重要性が多くの職員に共有されれば，貧困削減を含めた包括的な国家戦略の実践に大きな効果が期待できるのではないだろうか．ちなみに，中米のスペイン語圏の国々における日本の国際貢献の場はいまだ限定的で，本事業のような活動への参画機会は様々な意味において貴重であると思われる．

（佐々井司記）

韓国人口学会2010年大会

韓国人口学会は，2010年11月26日に国立ソウル大学において同学会の年次大会を開催した．大会は，同国の人口学会会員による一般学術研究報告とともに，日本ならびに中国人口学会の代表者を招請した“Toward International Cooperation on Current Demographic Issues in East Asia”（東アジアにおける人口学的課題に関する国際協力に向けて）と題する国際セッションが開催された．

国際セッションは，韓国人口学会会長の全廣熙（Kwang Hee Jun）による歓迎のスピーチに始まり，金斗燮（Doo-Sub Kim）教授の司会のもと，中国人民大学の翟振武（Zhai Zhenwu）教授による「中国の人口問題」と題する報告，髙橋が「低出生率下の超人口高齢化」，国立ソウル大学の権泰煥（Thai-Hwan Kwon）名誉教授が「韓国人口の将来動向と課題」と題する基調報告をそれぞれ行った．その後３名の討論者が各報告をもとに東アジア各国の人口動向と課題について議論を交わした．この国際セッションの，議論を通じ東アジア各国が抱える人口高齢化や少子化問題等の共通性について理解が進み，今後のこの研究領域における相互の交流と共同研究の可能性について議論を深めた．

韓国人口学会は，国際人口学会（IUSSP）の次の年次総会を2013年に韓国の釜山市で開催することになっており，今大会の参加者はそれに向けて，東アジア各国の人口研究に関する学術交流の一層の発展を相互に確認した．

（髙橋重郷記）